

1月17日
(火)

感謝状贈呈と委嘱状伝達

一人権擁護委員への感謝状及び委嘱状—

今回、退任された小森多美子さん(美並町)には、法務大臣からの感謝状が贈呈され、新たに郡上市から推薦した横井美和子さん(美並町)には、1月1日付けで法務大臣からの委嘱状が伝達されました。小森さんは、6年間にわたり人権擁護委員を務めました。



退任された小森さん(左)と新しい委員の横井さん

1月30日
(月)

運行事業者へバス車両を貸与

—八幡バスと良線・明宝線バス車両貸与式—



日置市長(左)から平岩代表取締役へ貸与する様子

和良線・明宝線の運行を担う事業者へ、市が国土交通省の公有民営方式バス車両購入費補助制度を活用し購入したバス車両1台が貸与されました。この路線を運行する(有)八幡観光バスの平岩代表取締役は「安全運行に心がけ、多くの方々にご利用いただきたい」と述べられました。

1月20日(金)
2月5日(日)

鯉のぼりと一緒に描かれたGJ8マンが色鮮やかに輝く

—「郡上本染 鯉のぼり 寒ざらし」伝統技法を披露、八幡小学校児童「ふるさと学習」—

1年中で一番寒いといわれる「大寒」の日(1月20日)と2月5日に、岐阜県の重要無形文化財に指定されている「郡上本染」の手法で描かれた鯉のぼりを小駄良川にさらし、布についたもち糊を洗い流す「郡上本染 鯉のぼり寒ざらし」が、大勢の観光客が見守るなか行われました。また、八幡小学校の4年生56人は「ふるさと学習」の



鯉のぼりと一緒に描かれたGJ8マン(1/20)



鯉のぼりに色付けをする児童(1/20)

授業で、渡辺染物店の職人や郡上本染後援会のみなさんの指導を受け、「鯉のぼり製作」の糊置き(1月13日)や色付け(1月20日)の工程を経て、2月5日には、「おたま」や「はけ」を使って鯉のぼりに付いたもち糊を小駄良川で洗い流しました。鯉のぼりは、同店で仕上げられ、3月中に学校へ届けられます。

2月1日
(水)

前田さんが「大賞」、那留小が「学校優秀賞」

—NHK全国俳句・短歌大会ジュニアの部—

NHK全国俳句大会ジュニアの部で最高位となる「ジュニア大賞」を受賞された前田優希さん(那留小3年生)とNHK全国短歌大会ジュニアの部で「学校優秀賞」を受賞された那留小学校(白鳥町)の庄司龍彦校長が、石田教育長に喜びの受賞報告をされました。



受賞報告をされた前田さん(右)と庄司校長

2月7日
(火)

新たな事業所と締結

—高齢者等見守り支援活動に関する協定—



今回新たに活動に参加いただくみなさん

市では、「高齢者等見守り支援活動に関する協定」を市内71事業所と新たに締結しました。今回、新たな事業所とこの協定を結ぶことで市内の協力事業所は154カ所となります。高齢者や地域でお困りの人が安全・安心に住み続けられるよう、今後も支援活動を事業所と市が協力して行っていきます。

1月31日(火)

郡上北高生と日置市長が郡上市への思いを語り合う

—「高校生ふれあい懇談会」を初開催—

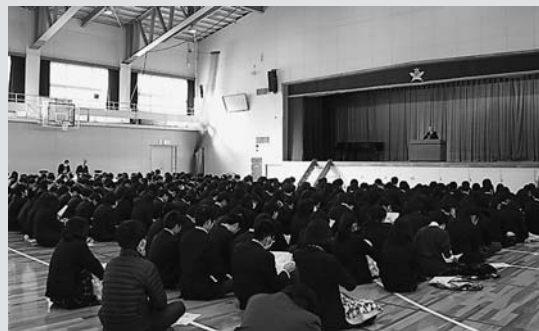
この日、郡上北高等学校（白鳥町）において、高校生と日置市長が市政などについて幅広く意見交換する「高校生ふれあい懇談会」が初めて開催されました。

「高校生ふれあい懇談会」は、大学等への進学や就職など、それぞれが将来への大きな転換期を迎えている高校生に対し、市政に関心を持ってもらうことや、高校生が感じている郡上市への思いを語ってもらおうと行われたものです。

当日は、第1部として全校生徒285人に対し、日置市長から郡上市の人口などの現状と課題、また雇用や子育てに関する取り組みについて講話が行われました。その後、第2部として生徒会執行部の1～3年生の生徒10人との意見交換が行われ、生徒からは、「市の人口減少等に対する様々な取り組みについて知ることができた」という市長講話に対する感想などが述べられました。また、「郡上へのU・Iターン等を促進するための取り組みは？」との生徒からの質問に対し、「市内企業の情報をみなさんに伝えることや、起業の支援、また奨学金の返還免除、子育て支援や高齢者福祉の充実などに取り組んでいる」と市長が回答するなど、活発な意見交換が行われました。



◀「第1部」日置市長による講話の様子



◀「第1部」講話の様子



◀「第2部」意見交換を行ったみなさんと記念撮影



◀「第2部」フリックを使い意見を発表する生徒

2月9日
(木)

女性ならではの連携に期待

—「第2回農業女子会」を開催—

農業生産や農産加工・販売を行っている団体等の女性のみなさんによる「第2回農業女子会」が市総合文化センターで開催されました。2回目となる今回は「生産者と消費者を結びつけるパートナー」と題した講演や参加された約50人が分野ごとに分かれ、日置市長も参加してグループワークが行われました。



◀グループワークの様子

2月13日
(月)

災害時の安否確認手段を確保

—「特設公衆電話の設置等に関する覚書」締結—



◀締結式を行った米田岐卓支店長(右)と日置市長

災害時に被災者の通信手段を確保することを目的として、西日本電信電話(株)岐阜支店と郡上市との間で「特設公衆電話の設置等に関する覚書」が締結されました。この覚書により、災害時専用の電話回線が指定避難所の一部に配線され、市が電話機を配置することで、特設公衆電話として速やかに安否確認のための利用ができるようになります。